

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 4 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24300212

研究課題名(和文) 体育教師の継続的な力量形成を保障する現職教育プログラムの運用と改善

研究課題名(英文) Implementation and Improvement of the In-service Training Program for Continual Professional Development in Physical Education Teachers

研究代表者

木原 成一郎(KIHARA, SEIICHIRO)

広島大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：20214851

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：我々は、体育指導に積極的に関与する立場にある教師が中心となり、学校内において情報を伝達し共有していく校内研修を組織化する現職教育プログラムを運用し改善した。

その結果、校外にある体育部会等の専門家集団から学んだ知識や技能を校内に伝達し同僚と共有していく過程で、校長や研究主任のリーダーシップの重要性が明らかとなった。また、校内研修には実技研修と研究授業及び日常的な同僚との対話という3つの研修形式で、体育授業の知識や技能が学校内に普及されていくことが分かった。特に、体育授業の考え方については、研究授業を契機としつつ、日常的な同僚との対話により形成され変容していく過程が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)： We implemented and improved the in-service training program that physical education coordinators organized on-job training within their schools in order to communicate and share information about teaching physical education.

As a result, it was important head teachers and in-service training coordinators had to lead school teachers to share ideas and skill of teaching physical education which they learned from physical education specialist out of schools. Besides it was founded that ideas and skill of teaching physical education was shared with school teachers through practical exercises training program, lesson study and daily dialogue with colleagues. Especially it was founded that their beliefs of teaching physical education had been formulated and changed through lesson study and daily dialogue with colleagues.

研究分野：体育科教育学

キーワード：体育教師 現職教育 力量形成 学級担任 校内研修 校外研修 部活動指導 生徒指導

1. 研究開始当初の背景

H21年度からH23年度まで研究代表者が代表者として遂行した「体育教師の継続的な力量形成を保障する現職教育プログラムの開発」基盤研究(B)(一般)では、様々な教師が体育授業に関する「力量」を形成するために、体育指導に積極的に関与する立場にある教師が中心となり、学校内において情報を伝達し共有していく校内研修を組織化する現職教育プログラムを開発した。また、体育を研究教科として担っている教師は、積極的に学校外に「力量」を形成する場を求めている。そこで、校内研修の指導者を養成するために、体育指導に積極的に関与している教師を学校外の研修や研究会に参加させる現職教育プログラムを開発した。

本研究は、小学校の体育授業を指導する教師に必要な力量を形成する現職教育プログラムの開発に焦点化したこれまでの研究成果を以下の3つの方向で発展させるものである。

第1に、我々が開発した校外研修と校内研修の現職教育プログラムを企画して実施し、その有効性を検証することである。第2に、アンケート調査による教師の一般的な意識調査をもとに提案した現職教育プログラムの有効性を、リアルな生活との相互関係の視点から把握するために事例的で質的な研究方法を採用して調査を行うことである。第3に、前回の科研費調査で課題として残された中学校における保健体育教師の意識調査を実施して分析し、義務教育全体の体育授業を指導する教師に必要な力量を形成する現職教育プログラムを開発することである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、我々が開発した義務教育段階における体育教師の継続的な「力量」形成を保障する現職教育プログラムを企画実施し有効性を検証することである。

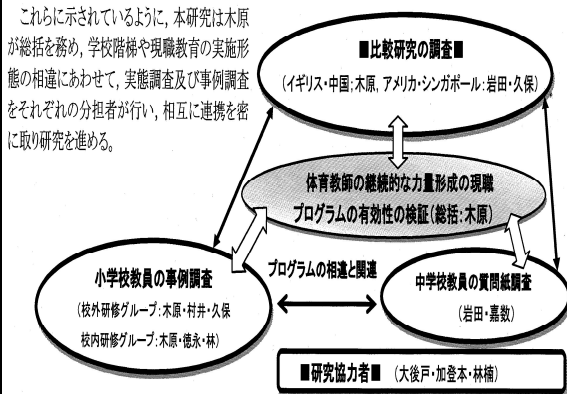
3. 研究の方法

1年次は、校内研修を実施するとともにそこに参加し、研修参加教師の体育授業を観察し、子どもの学習評価の結果から、子どもの学習改善への校内研修の影響を把握した。さらに、教師の力量形成に効果的な校内研修の要因を捉えるインタビュー等の質的な調査を実施した。2年次は、我々が企画した学区単位の校外研修参加者を対象に校内研修の指導者に必要な資質形成への効果を把握する事例的なインタビュー調査を実施した。3年次に校内研修と校外研修の調査結果を総合的に解釈し我々の開発した現職教育プログラムの有効性を検証し、改善点を明らかにするとともに、体育関連学会で成果を発表した。

学級担任制を取る小学校教師と教科担任制をとる中学校では体育教師の力量形成の様相は異なることが予想される。そこで小学

校教員班(木原、村井、久保、徳永、林)と中学校教員班(岩田、嘉数)の2グループを下図のように構成した。また、学校の背景等の個別で特殊な文脈を読み取ると同時に、できるだけ広範囲の多様な学校から事例を選ぶため西日本の4つの大学(広島大学、安田女子大学、梅光学院大学、沖縄大学)にまたがり研究組織を構築した。

本研究における研究代表者・研究分担者の役割・相互関係を図示すると次のようになる。



さらに、上図のように、インタビューの資料の収集と分析を遂行するために、広島大学大学院教育学研究科大学院生の加登本仁、林楠を研究協力者とした。また広島大学付属小学校教諭の大後戸一樹には現職教員の研究協力者として結果の解釈に専門的知識を提供していただいた。

4. 研究成果

3年間を通した研究成果は以下の3点にまとめられた。

(1) 我々は様々な教師が体育授業に関する「力量」を形成するために、体育指導に積極的に関与する立場にある教師が中心となり、学校内において情報を伝達し共有していく校内研修を組織化する現職教育プログラムを開発し運用した。その結果、校外にある体育部会等の専門家集団から学んだ知識や技能を校内に伝達し同僚と共有していく過程で、校長や研究主任のリーダーシップの重要性が明らかとなった。

また、校内研修には実技研修と研究授業及び日常的な同僚との対話という3つの研修形式で、体育授業の知識や技能が学校内に普及されていくことが分かった。特に、体育授業の考え方については、研究授業を契機として、日常的な同僚との対話により形成され変容していく過程が明らかとなった。

(2) ライフヒストリーの研究方法により、1名の小学校学級担任教師の体育授業観の形成と変容過程と1名の高等学校保健体育専科教員の体育授業及び教職の悩み事に関する変容過程を把握することができた。この研究成果により、小学校の学級担任教員及び中高の保健体育専科教員が、体育授業の考え方をどのように形成し変容させるかという点を中心に、体育教師の継続的な力量形成を保障する現職教育プログラムの背景にある成長

モデルを提供することができた。

(3)シンガポール、アメリカのニューヨーク州、スコットランド、中国浙江省における体育教師の現職教育の現地調査との比較研究により、日本の校内研修としての授業研究が、体育授業の改善と学校内の同僚性の形成に効果的であることが示唆された。

今後の本研究の展望として以下の諸点が指摘できる。

(1)我々が開発した義務教育段階における体育教師の継続的な「力量」形成を保証する現職教育プログラムは、少数の学校での事例研究により、その効果を一定実証することができた。しかしながら、体育教師の継続的な「力量」形成は、体育授業を取り巻く地域や保護者、学校の管理職や教員という背景に非常に影響を受ける。今後、我々の開発した現職教育プログラムをより多くの地域及び学校に実際の運用を拡大し、その改善を図ることが求められる。

(2)2人の教師のライフヒストリー研究から、体育教師の継続的な「力量」形成は、各教師の体育授業に関する考え方に大きな影響を受け、個性的に遂行されることが示唆された。体育教師の継続的な「力量」形成を探求するうえで、体育授業に関する知識や技能に加えて、授業観や子ども観、教材観という教師の体育授業に関する考え方について探求することが求められる。

(3)海外の現職教育との比較により日本の校内研修としての授業研究が、体育授業の改善と学校内の同僚性の形成に効果的であることが示唆された。21世紀に入り、算数・数学や理科を中心とした授業研究が世界40カ国に現職教育の方法として紹介、普及されている。体育授業についても諸外国で展開されている授業研究と日本の授業研究を比較し、現職教育としての成果と課題を明らかにする研究の着手が求められる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計26件)

1) 徳永隆治(2015)「小学校体育科授業の指導力向上をめざす現職研修に関する研究」『安田女子大学紀要』第43号、pp.213-222【査読なし】

2) 林俊雄(2015)「異質協同の学習集団によるわかる・できる体育を求め続けて」『たのしい体育・スポーツ』第288号、pp.22-27【査読なし】

3) 嘉数健悟・岩田昌太郎・木原成一郎・徳永隆治・林俊雄・大後戸一樹・久保研二・村井潤・加登本仁(2015)「中学校保健体育教師の体育授業の力量形成に関する研究 - 教職歴の差異による悩み事に着目して - 」『沖縄大学人文学部紀要』第17号、pp.39-48.【査読なし】

4) 木原成一郎・林楠(2014)「中国浙江省杭州市における体育教師の現職研修に学ぶ」『体育科教育』第62巻12号、pp.10-12.【査読なし】

5) 木原成一郎・久保研二・大後戸一樹・岩田昌太郎・徳永隆治・林俊雄・村井潤・加登本仁・嘉数健悟(2014)「小学校における体育授業の力量形成を促す現職研修に関する研究」『学校教育実践学研究』第20巻、pp.115-124.【査読なし】

6) 加登本仁・大後戸一樹・木原成一郎(2014)「小学校体育科のボール運動の授業における学習集団の形成過程に関する事例研究 エングストロームの活動理論を手がかりとして」『教育方法学研究』39巻、pp.83-94.【査読あり】

7) 加登本仁(2014)「研究授業を担当する若手教師が直面する困難とその克服過程に関する活動理論的考察」『初等教育カリキュラム研究』第2号、pp.13-21.【査読あり】

8) 大後戸一樹・久保研二(2014)「授業を通して児童が読み取った運動情報の内容分析：マット運動における運動技能の変容との関係に焦点をあてて」『学校教育実践学研究』第20巻、pp.109-114.【査読なし】

9) 久保研二・木原成一郎・岩田昌太郎(2014)「教員養成課程の体育の授業科目におけるポートフォリオ活用に関する一考察 - 学生と大学教員の振り返りに着目して - 」『体育科教育学研究』第30巻2号、pp.13-23.【査読あり】

9) 嘉数健悟(2014)「保健体育教師を志望する学生の保健授業観に関する研究」『学校保健研究』第56巻5号、pp.376-382.【査読あり】

10) 嘉数健悟・江藤真生子(2014)「体育教師志望学生の授業観の様態に関する研究 - 教科の指導法に関する科目」の授業前後に着目して - 」『九州体育・スポーツ学研究』第28巻2号、pp.1-11.【査読あり】

11) 嘉数健悟(2014)「中国の学校体育 - 北京市海淀区の小学校体育授業研究会に参加して - 」『体育科教育』第62巻9号、pp.42-45.【査読なし】

12) 岩田昌太郎(2014)「中高の保健体育教師の意識調査から見てきた体育授業への問題・関心の現実」『体育科教育』第62巻7号、pp.38-41.【査読なし】

13) 岩田昌太郎・齊藤一彦・前田一篤ほか3名(2014)「修士課程段階におけるアクションリサーチ型実習の効果に関する事例的研究 - 保健体育科実習生の授業についての知識と教授技術の変容に着目して - 」『学校教育実践学研究』第20巻、pp.141-151.【査読なし】

14) 加登本仁(2014)「学習集団のゴールイメージ」『体育科教育』第62巻5号、pp.10-13.【査読なし】

15) 徳永隆治(2014)「『体づくり運動』の内容構成を問い直す」『体育科教育』第62巻11

- 号、pp.14-17【査読なし】
- 16)林俊雄(2014)「広島大学附属小学校の歴史と伝統-自由と責任の中で自前の教育を構築する-」『学校教育』第1157号、pp.18-23.【査読なし】
- 17)林俊雄(2014)「サッカーの教材史を辿る」『体育科教育』第62巻10号、pp.14-18.【査読なし】
- 18)木原成一郎・村上彰彦(2013)「体育授業の力量形成に関する一考察-小学校教諭Aのライフヒストリーにおける体育授業観を中心に-」『学校教育実践学』第19巻、pp.247-258.【査読なし】
- 19)加登本仁・下村奈央・大後戸一樹・木原成一郎(2013)「体育の学習集団形成における教師の指導性に関する一考察」『初等教育カリキュラム研究』第1号、pp.59-68.【査読あり】
- 20)木原成一郎・加登本仁(2013)「海外の現職研修に学ぶ スコットランドの現地調査から」『体育科教育』6月号、pp.24-28.【査読なし】
- 21)大後戸一樹・久保研二・木原成一郎(2013)「ビデオ映像から読み取られた運動情報の内容分析：小学2年生と6年生の記述内容の比較から」『スポーツ教育学研究』第33巻2号、pp.23-33.【査読あり】
- 22)村井潤・明石靖子・安部悦子・岡田真史・藤本翔子(2013)「小学校初任教師が1学期に直面する課題に関する事例研究」『初等教育カリキュラム研究』第1号、pp.47-57.【査読あり】
- 23)久保研二・木原成一郎(2013)「教師教育におけるリフレクション概念の検討-体育科教育の研究を中心に-」『広島大学教育学研究科紀要第一部(学習開発関連領域)』第62号、pp.89-98.【査読なし】
- 24)嘉数健悟・岩田昌太郎(2013)「教員養成段階における体育授業観の変容に関する研究-教育実習前後に着目して-」『体育科教育学研究』第29巻1号、pp.35-48【査読あり】
- 25)嘉数健悟(2013)「教育実習で変わる授業観」『体育科教育』第61巻11号、pp.58-59.【査読なし】
- 26)嘉数健悟(2012)「体育教師志望学生の体育授業観に関する事例研究-因子構造と学年間の差異-」『広島大学大学院教育学研究科紀要第一部(文化教育開発関連領域)』第61巻、pp.291-297.【査読なし】

〔学会発表〕(計16件)

- 1)木原成一郎、久保研二、小学校における体育授業の力量形成に関する研究-研究授業後の協議会における談話分析を中心に-、日本スポーツ教育学会第34回大会、2014年10月25日~26日、愛媛大学
- 2)加登本仁、辻延浩、小学校教師の体育授業力量形成の契機に関する調査研究-指導の立場にある教員を対象として、日本ス

- ポーツ教育学会第34回大会、2014年10月25日~26日、愛媛大学
- 3)Shotaro IWATA, Ayaka ISEKI, Kazuma MAEDA, Shun WATANABE, The Development and Practice of Physical Education Pre-serviced Education Curriculum on Consistent Undergraduate and Graduate in Japan, 世界授業研究学会(WALS)25-27, November, 2014, Indonesia
- 4)徳永隆治、木原成一郎、岩田昌太郎、大後戸一樹、久保研二、坂本亮、小学校体育科授業の現職研修に関する調査研究-参加者の属性と研修の内容・形式についてのニーズとの関連性、日本スポーツ教育学会第34回大会、2014年10月26日、愛媛大学
- 5)嘉数健悟、岩田昌太郎、前田一篤、保健体育教師の力量形成に関する事例研究-養成段階から初任期の授業観を中心に-、日本体育学会第65回大会、2014年8月25日~28日、岩手大学
- 6)木原成一郎、久保研二、大後戸一樹、岩田昌太郎、徳永隆治、林俊雄、村井潤、加登本仁、嘉数健悟、小学校における体育授業の力量形成を促す現職研修に関する研究-地区研究会体育部会に注目して-、日本スポーツ教育学会第33回大会、2013年10月19日~20日、日本大学
- 7)木原成一郎体育授業の力量形成に関する一考察、日本スポーツ教育学会第32回大会、2012年11月10日、中京大学
- 8)S. KIHARA, S. FUJIMOTO, H. KADO MOTO, K. OSEDO, A Case Study on the tactical knowledge for the Physical Education classes in An Primary School, TGFU International Conference, 2012年7月16日, Loughborough University, United Kingdom
- 9)岩田昌太郎・中山泉・前田一篤、教員養成段階における早期の学校体験の効果に関する事例研究-H大学の「特色ある教育実習プログラム」に着目して-、日本体育学会第63回大会、2012年8月24日、東海大学
- 10)岩田昌太郎・嘉数健悟・手島祥平・山木彩加、体育科教育学における研究動向とその特徴-日本教科教育学会誌の「内容」と「方法」の分析から-、日本教科教育学会、2012年11月4日、東京学芸大学
- 11)Shotaro IWATA., Kazuma MAEDA. and Kengo KAKAZU, The Research a trend on Physical Education Pre-serviced Education Curriculum Assessment in Japan: a focus on the Hiroshima University Model, The World Association of Lesson Studies 2012, 2012年11月29日シンガポール
- 12)嘉数健悟・岩田昌太郎、教師志望学生の体育授業観の変容に関する事例研究-「教科の指導法に関する科目」の授業前後による検討、日本体育学会、2012年8月23日、東海大学

13)加登本 仁, 体育の学習集団形成における教師の指導性に関する一考察, 日本体育学会, 2012年8月24日, 東海大学

14)久保研二, 岩田昌太郎, マイクロティーチングを2回連続で実施することの効果に関する事例研究, 日本体育学会, 2012年8月23日, 東海大学

15)久保研二, 授業におけるポートフォリオの活用 学生と教員の振り返りに着目して, 大学教育学会第34回大会, 2012年5月27日, 北海道大学

16)大後戸一樹・久保研二・木原成一郎, ビデオ映像から読み取られた運動情報の内容分析: 小学校2年生と6年生の記述内容の比較から, 2012年11月10日, 中京大学

〔図書〕(計3件)

1)木原成一郎, 久保研二, 大後戸一樹, 岩田昌太郎, 徳永隆治, 林俊雄, 村井潤, 加登本仁, 嘉数健悟, 前田一篤, 他(2015)『体育授業を学び続ける: 教師の成長物語』創文企画, pp.1-144.

2)木原成一郎, 大後戸一樹, 長野由弥, 村上彰彦, 松下篤, 小田啓史(2014)『体育授業の目標と評価』広島大学出版会, pp.1-160. pp.219-226, pp.238-254.

3)木原成一郎・久保研二(2012)『『若手教師』の成長を支えるもの』(pp.93-114.)『教師になること, 教師であり続けること』勁草書房

〔その他〕

・雑誌論文の5)7)8)13)18)19)22)23)26)は以下の広島大学学術情報リポジトリで公開。

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja>

・雑誌論文の21)は以下のJ-Stageで公開。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjses/-char/ja/>

・雑誌論文の9)24)は以下のJ-Stageで公開。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsppe/-char/ja/>

・雑誌論文の6)は以下のCINIで公開。

http://ci.nii.ac.jp/vol_issue/nels/AN00058176/ISS0000491168_ja.html

6. 研究組織

(1)研究代表者

木原 成一郎(KIHARA SEIICHIRO)

広島大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号: 20214851

(2)研究分担者

徳永 隆治(TOKUNAGA RYUJI)

安田女子大学・教育学部・教授

研究者番号: 60310843

林 俊雄(HAYASHI TOSHIO)

梅光学院大学・子ども学部・教授

研究者番号: 50441621

大後戸 一樹(OOSEDOKAZUKI)

広島大学・大学院教育学研究科・准教授

研究者番号: 20632821

岩田 昌太郎(IWATA SHOTARO)

広島大学・大学院教育学研究科・准教授

研究者番号: 50433090

村井 潤(MURAI JUN)

武庫川女子大学・文学部・講師

研究者番号: 90610890

加登本 仁(KADOMOTO HITOSHI)

滋賀大学・教育学部・講師

研究者番号: 40634986

嘉数 健悟(KAKAZU KENGO)

沖縄大学・人文学部・准教授

研究者番号: 50612793

久保 研二:(KUBO KENJI)

島根大学・教育学部・講師

研究者番号: 90594698

前田 一篤(MAEDA KAZUMA)

徳山大学・経済学部・助教

研究者番号: 20733231

(3)連携研究者

(4)研究協力者

林 楠(LIN NAN)

中国・浙江大学・講師

(2012年まで広島大学大学院教育学研究科大学院生)